

模試を何のために受けるのか

3年生は最近、模試が毎週のようにありましたし、2年生はいよいよ5教科の模試、1年生も模試が本格的にはじまりました。

そもそもなぜ模試を受けるのか？なんとなく受け身で模試を受けている人もいれば、模試でよい判定を出さなければいけないとプレッシャーを感じている人もいるかもしれません。いまさらではあるのですが、模試についてちょっと考えてみましょう。

模試を受けることの目的は大きく以下の①～④になると思います。

①自分の実力を知る

範囲が限定されている定期テストに対し、模試は範囲が広いので、範囲を絞った対策はできません。したがって、**自分の実力そのもの**をはかることになります。また、受験者は校内だけでなく、全国の高校生です。自分の実力が全国でどれぐらいの位置にあるのか、ということ把握する指標にもなります。

②弱点・強化すべきところを知る

実力を知るだけで終わりにしたら、何の意味もありません。模試の重要な役割は、**できなかったところを自分の弱点と受け止め、その弱点をクリアしていくためのツール**だということです。特に試験直後は記憶が鮮明です。そのタイミングで振り返ると、勉強の効果は絶大です。また、半年後ぐらいに模試を振り返ると、自分の成長も確認できます。

③大学入試の問題形式に慣れる(特に「共通テスト」・難関大の問題形式)

ほとんどの大学受験生が受ける「共通テスト」のマークシート試験は特殊な試験です。記号式は簡単だと思われがちですが、実際には読む量が多かったり、見分けがつきにくい選択肢があったりと、**慣れと対策**が必要な形式です。また、記述式についても、短文でまとめたり、計算過程を明示したりといった練習は必要になります。さらに、3年生になると、「冠模試」と呼ばれる、難関大学の対策模試が登場します。これは、各大学の傾向をふまえて、予備校各社が作成する模試です。これらは判定よりも、それぞれの大学の出題形式に慣れることが一番の目的になります。

④志望大学に対する自分の合格の可能性を知る

模試を受験すると、最も気になるのが偏差値や、合格の可能性(判定)でしょう。偏差値の上下を見たり、A判定で喜んだり、E判定で凹んだり、一喜一憂しがちです。ですが、こういった判定や、偏差値そのものが目的化してしまうと、見失うことがいっぱいあります。そのあたりのことについて、さらに詳しく考えてみましょう。

模試の偏差値・判定について考えてみる

まず、**模試の判定**ですが、これは各予備校が、過去の大学の合格者データと、模試の際に受験者が書いた志望校のデータ、そして模試を受けた受験生の成績データを組み合わせて**各社が独自に出しているもの**です。以前、予備校の解説会に参加した際、担当の人が「この模試では〇〇大学のB判定のラインを一つ上げてみました」といったような話をしてくれました。それを聞いて「へ～この人の胸三寸で判定のラインが変わるのか～」と感心したことがあります。というわけで、模試の判定はあくまでも各社の予想であって、絶対的なものではないということです。

もう一つ、**偏差値**についてです。偏差値の計算方法は数学でやっていると思うのですがどうですか？偏差値というのは、「その模試を受験して平均点をとった人」が「50」になるように調整した値ですね。ですので、例えば「**偏差値60の大学**」という謎の言い方(嫌いですが)がありますが、本当は「その模試を受験した人の中で、上位16%ぐらいの場所にいる人だったら合格の可能性が50%ぐらいなんじゃないかなと思われている大学」だ、ということを指しています。そんなわけで、偏差値というものは「その模試を受験した人」が母集団であり、絶対的な値ではないということは理解しておきましょう。それを踏まえると、もちろん、その気持ちはわかりますが、「**偏差値をあげたい**」とか「**偏差値が下がって不安**」という考え方はちょっと正確ではありません。なぜなら、「その模試を受験した人」と「次の模試を受験する人」が全く同じではないからです。もし、同じようなことを考えるなら、「**正答率をあげたい**」とか、「**誤答が増えたから不安**」と考える方が適切なんじゃないかな、と思います。

ただ、悩ましいことに、そうはいうものの、模試の偏差値はそれなりに参考になることも事実ですので、無視はできないというのが本音ではあります。難しいですね。

模試の偏差値・判定を見るうえでの軸にしてほしい考え方

以下、模試ときちんと向かい合うための参考になる考え方を紹介します。ちょっとだけ不安なのは、とらえ方によっては自分に甘くなってしまうかもしれません。上手に模試を利用しつつ、やる気を向上させるアイデアとして参考にしてください。

①本当に自分の学力(実力)が反映されているか

あくまでも、模試の判定は「その模試の成績」でみた合格の可能性です。ちょっとした勘違いや度忘れがあっただけなのでもっと点数が取れるはず(実力はもっと上)、とか、たまたま直前にテキストで見た内容が出題されたり、偶然記号が合っていただけなので、点数(実力)はもっと低いはず、といった感覚は大事にしましょう。

②本番の時の学力はどうなっているか

当然、「その模試」と「本番」では時間差があります。ちゃんと振り返りをして、積み上げをしていけば、「その模試」より学力(実力)はもっとついているはずですね。みなさんにはすてきなのびしろがあるはずです。偏差値・判定をみつつ、どれだけ積みあがるかを想定して、模試の結果を参考にしましょう。

③模試の受験者は模試ごとに変わる

模試は日本の高校生全員が受けているわけではありません。また、模試によっては受験者の学力も違います。さらに3年生ともなると、浪人生が模試の受験生として入ってくるので、かなり影響を受けます。もちろん、模試の各社はそれを踏まえたくて合格判定等を出すので、それなりに判定には妥当性はあるが、みなさんが気にする偏差値の持つ意味は、模試ごとにかかなり変わります。

もう一度確認しておきますが、「偏差値 50」は、「その模試を受験した人の平均点」だ、ということしか意味していません。受験生が 30 万人を超えるような大規模な模試だとある程度参考になると言えますが、受験生が数万人程度の模試だと、偏差値のもつ役割は微妙です。ちなみに、本校ぐらゐの高校生だと、人数の多い模試だと偏差値が高めになりやすく、人数が少ない(かつ、レベルの高い)模試だと、偏差値は低めになると思います。(※理由はわかりますか？友達と考えてみましょう)

④年によって、状況によって、大学や学部の人気が増えたり減ったりする

これはまあ、その通りです。例えば、コロナの時期は、外国語学部や、国際関係学部の人気が下がりました。また、ここ数年は情報・データサイエンス系の学部が増えたことで、志願者に対する志願者の割合が下がり、判定が甘めに出たりします。こういったことは予備校各社が分析して、先生方に伝えてくれるので、参考にしましょう。

⑤最終的に志望校を変える人がいるので、模試の判定と異なる結果になる場合もある

国公立大学の前期試験は1校しか受験できません。共通テストの自己採点で出した判定を見て、どこを受験するかを変える人も多いです。その結果、最終的に急に志願者が増えたり、急に志願者が減ったりする学部・学科があります。その結果、それまでの模試の判定とは全く違う結果が生じることがまれにあります。もし、本当にその大学に行きたいという気持ちがあり、共通テスト自己採点での判定が微妙であった場合、結果的に志願者がいなくなる可能性を期待して、志望校を変えない、という作戦はあります。もちろんリスクは高いので、先生方と相談しましょう。

⑥【主に3年生/3年生になったら】11月以降のプレテストについては、偏差値・判定は関係なくなる

なぜかという、最終的に国公立大学の出願を決める共通テストのデータは、模試ではなく本番の自己採点の点数になるからです。(※これも理由はわかりますね？友達と考えてみましょう) あくまでも、プレテストは、本番の練習(全統プレは、リスニング機械の練習、磐南(駿台)プレは、時間割の練習)になります。もちろん、高得点を目指す・完成を目指すということ、それから私立の共通テスト事前出願の参考にすることはあります。

終わりに

模試の判定・偏差値は、野球でいう打率みたいなものです。打率は、これまでそのバッターが、どれだけ打てたか、という過去のことでしか表していません。次の打席にヒットを打つか、三振するかというデータではありません。それでも、回数を重ねて出した打率は、なんとなく次に打ちそうだ、という期待を持たせてくれるデータではあります。一方で、例えば打率が低かった選手がフォームを変えたとたんホームラン連発するようになったりもします。

模試の結果は打率と同じで過去のデータです。目を逸らしてはいけませんが、そこに縛られるのもまた良いことはありません。模試を参考にしつつも、本番の打席でホームランを打とう!その心意気で本番に臨んでください。